

## 第1回大野市屋内型子どもの遊び場整備事業基本計画策定委員会 会議録

日時：令和5年1月26日(木) 10時～12時

場所：まちなか交流センター 中会議室

### 【出席者】

- ・全委員（10名）
- ・行政経営部長 ※途中退席
- ・事務局（政策推進課 2名）

### 1 開会

### 2 委嘱状交付

### 3 委員長、副委員長の選任

事務局一任により、事務局から推薦し承認

- ・委員長 青井 夕貴 委員
- ・副委員長 清水 啓宏 委員

### 4 行政経営部長あいさつ

### 5 施設見学

### 6 委員会の趣旨説明及びスケジュールについて

1. 委員会の趣旨
2. 委員会のスケジュール
3. 事業のこれまでの経緯
  - ・施設の方向性
  - ・ニーズ調査（アンケート）
  - ・まちなか交流センターの現在の利用について
4. 事業スケジュール
5. 今後の課題

### 7 意見交換

#### ○意見交換テーマ「施設整備について」

委員：小学生になると遊具で遊ぶよりスポーツに目を向ける事が多くなる。幼児や小学校低学年の子ども達は親同伴で遊びに行くことが多いが高学年になると友達と約束して遊びに行く機会が増える。学校から「放課後は校区内で遊びなさい」と言われているため、校区外の子供達は平日に当施設に遊びに行けない。校区外の子供達への配慮も必要。

委員：小学校に関しては各学校に子ども教室や子どもクラブがあるので、校区外の子供達が放課後に当施設を利用するとなると、保護者の同伴が必要となる。校区外の子供達の利用は土日に限られる。

委員：大型遊具やボルダリングがあれば子ども達も喜ぶと思う。小学生以下の子ども達は保護者同伴となるため、保護者の方たちも気軽に利用できる施設にしてほしい。平日は校区内の子ども達の利用がメインになると想定される。土日にしか利用できない他校区の子ども達も気軽に遊びに行ける場となってほしい。保護者の方たちも忙しく子ども達の送迎は難しいため、子ども達だけでも行けるような送迎バスが運行されるとよい。

事務局：現在、大野市街地では「まちなか循環バス」が運行している。バス停近くの子供達や、時間が合えば物理的には来ることは可能であるが、その移動手段が安全かどうかは保護者の判断に委ねられる。但し郊外は運行していない。今後、中学校の再編が進み令和6年4月より新中学校2校による運営がはじまる。それに伴いスクールバスが運行される。

- 委員長：利便性のよい子ども達だけが利用する施設に偏ってしまうのは避けたいため、何らかの工夫が必要である。
- 委員：ふれあい公園には、年齢別に遊びエリアが区分された立派な無料の屋外遊具がある。県外からの利用者も多く、屋内型の遊び場施設もふれあい公園に併設した方がよい。まちなか交流センター周辺は、県内外の観光客、各イベント時の集客を目的としたエリアだと思う。アクティブな利用はふれあい公園に集約した方がよいのではないか。郊外の小学校の遠足、校外学習にも使いやすく利便性が高まる。
- 事務局：屋内型の遊び場施設の選定にはPT 会議でも議論になった。市としても、ふれあい公園の一角に新しい屋内型の遊び場施設を併設することで、エンゼルランドのような全天候型施設として整備することが理想である。しかし、財政面や今後の人口減少などをトータル的に考えると、新規の公共施設を建設することは非常にハードルが高い。そこで、新規の施設建設から既存施設の改修へシフトを変え検討した結果、まちなか交流センターの改修という結果に落ち着いた。観光客についても、結ステーションが観光拠点であることは理解している。駐車スペースの面で課題が残っているため、今後検討を進めていきたい。イベントについては、でっちゃん祭り、産業フェア、越前おおの冬物語など当エリアを拠点とした観光イベントがある。当施設が屋内型の子どもの遊び場施設として整備された際は、違う場所に移って頂くことになる。イベントは一時的なものであり、当施設は通年型の子ども達が楽しく遊べる施設として整備し、中心市街地の賑わいに繋がることを望んでいる。隣接する「越前おおの水のがっこう」は、市外から多くの子ども達が遠足で来ている。天候が悪い日は、当施設も連携していきたいと考えている。また、家族連れの観光客も多いため観光客の集客も見込んでいきたい。本委員会の屋内型の遊び場施設の検討については、「まちなか交流センター」の改修を前提として議論して頂きたい。
- 委員長：施設を新たに建設することは、費用も時間も掛かる話である。今ある施設を最大限に活かしていく考え方は間違っていない。既存施設の活用には、メリット・デメリットが必ずあると思われるが、デメリットからは目を背けないで議論していきたい。
- 委員：健常者だけでなく、自閉症、ダウン症、パニック障害を持った子ども達も、安心安全に遊べる施設として整備してほしい。一時的にパニックを起こした際は、本人のクールダウン、パニックになった原因などを話し合える場所も必要である。健常者の保護者の方が、障害を持つ子供たちの利用を受け入れてくれるのかも不安。障害を持つ子ども達を受け入れられる環境が整備され健常者の子ども、障害を持つ子どもが互いに楽しく遊んでいる姿を見れば利用者も増えると思う。すべての利用者が安心安全に利用できるように施設内の段差解消など配慮してほしい。障害を持つ子どもの保護者も、屋内型の遊び場施設に期待している反面、障害を持つ子どもが安心安全に遊ぶことが本当にできるのか不安を抱えている。
- 委員長：可能であれば障害を持つ保護者の方に、遊び場施設に関して具体的な要望やアイデアについて聞き取りを行い計画に反映させていきたい。
- 委員：中心市街地活性化の観点から、地区外からの来訪者も楽しめる施設になれば市内の観光にも繋がる。そのためには「大野らしさ」が感じられる遊具や設備を整備することが誘客の材料になるのではないかと。ありきたりの施設ではリピーターが望めない。子育て世代の方が交流できる会議室などのスペースは必要。子育て支援センターを当施設に併設してはどうか。会議室は1箇所でもいいので残してほしい。今後は中心市街地の各店舗が誘客に向けた仕掛けづくりを進めていく事が大切。
- 事務局：「大野らしさ」は当施設計画のコンセプトを決めていく上で重要なポイントとなる。当施設において「大野らしさ」を発揮していきたい。当施設の現状の稼働率は3~4割程度である。夜間の利用率は高い。周辺に同じような体育館があり当施設と同様3~4割の稼働率である。今後はそちらの体育館で利用者を吸収して頂く予定でいる。
- 委員：1日の中で指導者も指導できる時間が限られていて、一つの体育館予約でも時間の取り合いになっている中、当施設利用者が一つの体育館に吸収されるとなると更に予約時間

の取り合いの激化が懸念される。

委員：冬場は特にサッカーや野球クラブの屋外活動グループの利用者も集中する。

委員長：リピーターを増やすことは大切なことであり、遊具も導入した当初は目新しく利用もされるが、5年、10年先を見据えた長期的な計画が必要。

委員：県内の人気のある先進施設（だるまちゃん広場、エンゼルランド）は、遊び場に飲食スペースが併設されている。だるまちゃん広場はスターボックス、エンゼルランドははちの子が併設。軽食や弁当持参で気軽に食べられる飲食スペースを併設することで、利用者の滞在時間も長くなるのではないかと。キッチンスタジオ等、子育て世代の生活の流れにも配慮することが重要である。子ども達の利用する施設は「遊び」と「飲食」はワンセットである。イベントについては、大なり小なり毎週何かしらの体験イベントを開催した方がよい。施設を管理する運営会社の話にはなると思うが、子ども向けのワークショップがあってもよいのではないかと。遊具はボルダリングやボールプールが人気である。おおい町のこども家族館に大きなボールプールがあるが、コロナ過でボールの消毒ができないことで全く使われていない状況である。当施設全体をボールプールにした時、今後コロナのような事態が再来した時は施設自体が全く利用できないことになる。ボルダリングは様々な高さの施設があり、荒島の郷にあるような施設をつくる場合は、安全装置や監視員の常駐が必要となる。重症心身障害を持つ子ども達のリハビリ施設でエアトランポリンを使用して、リハビリ活動している事例もあるため、一般的な遊具以外にもインクルーシブル遊具の事例なども参考にしてほしい。県内には子ども達を遠足に連れていく場所が少ない。当施設も大野市民の利用だけではなく他の市町から遠足で来てもらえるような施設としてPRできないか。まちなか活性化にもつなげると考える。他の先進施設の真似にならないようにオリジナル性を持たせてほしい。人気のある施設の遊具だけに目を向けるのではなく、周辺環境や利用者の利便性、まちづくりなどバランスを持って検討して頂きたい。大人も子どもも楽しめる施設づくりが重要である。

委員長：イベントに関しては、だるまちゃん広場もフリーマーケットなど多くのイベントを開催し賑わっている。平日、土日で利用形態も変わってくる。エンゼルランドも平日は乳幼児の利用が多く、乳幼児と保護者を対象としたイベント運営、土日は全年齢を対象としたイベントや体験の運営に力を入れて取り組んでいる。当施設の運営において参考になるのではないかと。

事務局：公共施設で飲食を提供することはハードルが高い。イベントに関しては、保育や教育に長けた業種の事業者、パンなど食の提供をして頂ける業種の事業者のタイアップで指定管理の手法にて運営を行い、平日、土日の運営を事業者にてアレンジして管理をして頂けることが理想である。施設内の1区画スペースを貸すことも可能である。

委員：飲食などモノの提供はできても、平日と土日では利用者のニーズも変わるため、平日、土日に対応したイベントの企画、仕掛けづくりをコーディネートしてくれる人材が得られるかが今後の課題。

事務局：改修した後の管理運営が重要となってくる。いかに長い期間市民に愛される施設になるかという点をウェイト的に高く考えている。オープン当初は利用者数も多いと思うが、長期的に利用者数を継続させる施設になるようにしていきたい。

委員：魅力ある施設にして市外からの来訪者の滞在時間を延ばし、周辺の観光施設との相乗効果を図り、まちなかの賑わい、活性化につながってほしい。基本計画を年度内でまとめるとのことだが、事業費の算定もあるのであれば規模感を含めてたたき台があると議論も深まるのではないかと。

事務局：本施設整備の財源については、福井県において県内の全市町を対象に「全天候型遊び場」の整備を支援する助成金（各市町に1億円）を活用する予定。遊具の購入、設置が対象となる。遊具整備に付随して、子ども達がワクワクする内装や塗装、床の張替えなどの改修も含まれている。但し、会議室として充実させるための改修等は対象外になる。県からの助成金に市からの整備費をプラスして整備していく方針である。既存の施設をできるだけ活かした提案をしていきたい。体育館にはステージがあるが単に撤去するので

はなく活用していきたいと考えている。例えば高低差を活用したすべり台の設置や、保護者が全体を見渡せる休憩所の設置など上手く活用していきたい。ステージの両袖には、倉庫、放送室があるが、障害者を持つ子が、安心して利用できる機能を持たせることも可能である。

委員：4年前に市民を対象としたアンケート調査を行った際の自由意見で、雨や雪の降った時の屋内型の遊び場を整備してほしいという意見が多かった。本施設整備は、その方々の夢が叶うことになる。平日は校区外の子供達の利用が見込めないため、校区外の子供達も平日に利用できる運用ができればよい。障害を持つ子供達も利用できる施設整備については賛成である。県内に特別支援学校がいくつもある。当施設を選んで遠足等で利用してくれる場所になることを願っている。施設はトイレの清潔感が重要だと考えるため特に配慮してほしい。遊具だけ設置しても飽きる可能性が高い。子供達が自ら道具を持って行って遊びを考えるスペースも必要ではないか。特徴のある「大野らしさ」、障害のある子供達も気軽に利用できるような他にはない「ウリ」が必要。

委員長：小学生でも中学生でもよいが子供たちの意見がほしい。大野の子供達の声聞かせてほしい。大人とは違う視点で面白いアイデアが出るのではないか。アンケート形式ではなく少人数でもいいので生の声を聞いた方がよい。小学生に限定するのではなく中高生に聞いてもよい。(自分たちの過去を振り返ってこんな施設があったら子供達は喜ぶという意見を出してもらおう)

委員：環境学習の一環でディスカッションすることは可能である。

委員：児童センターで話を聞く方が年齢層も偏らなくてよいのではないか。

委員：保育園の年中・年長の園児を対象に絵を描いてもらってもよいのではないか。言葉では伝えられないが思いを絵に描いてもらって具現化してもらうのもよいと思う。

委員：乗り合いバスは現状の利用者が少ないため上手く活用できないか。

#### ○意見交換テーマ「大野らしさ」について

委員：古くさい(アップデートも必要であるが城下町の町並みの古くくさは残すべき)、雪、山水、溪流、釣り、星空など自然の豊かさが大野の強みである。

委員：春や秋のイベントの多さ。温かい人(人情味のある人)が多いと市外の人達からよく話を頂く。

委員：盆踊りや雛段飾りの大野らしいイベントは子供達も喜んで行く。

委員：周辺の町並みに溶け込んだ施設の外観デザインは必要。大野の食(お団子、きんつば、水ようかん)にちなんだ遊具があっても面白い。どこを見ても大野だになっていうのも面白いのではないか。

委員：大野市にファーストウッドの木材を取り扱っている工場があるが、遊び場に木チップを活用してはどうか。室内で農業体験はできないか。(里芋畑など)クマやリスなど大野に生息する動物をイメージした遊具があっても面白い。

委員：自然がすべてではないか。(施設内の体験活動に活かしてほしい)

委員：自然(四季の移ろい、星空がキレイ)。体育館の窓から大野城が見える。当施設の「ウリ」になるので活かしてほしい。

委員：セーレンプラネット(福井市自然博物館)のようなシアター的な施設を導入して星空観察体感ができてもよいのではないか。

事務局：古くくさは大野のいい所でもある。大野城、水、雪、山などの「大野らしさ」を体育館一面に色で表現するのもよいのではないか。

事務局：自然が豊かで匂いがいい(空気がキレイ)。

委員：忍者など歴史に絡むような施設(遊具)が館内にあるとワクワクする。

委員：館内に「優しさ」が感じられたら利用者は嬉しくなるのではないか。

事務局：「大野らしさ」をまとめると、自然、歴史、食など小さいけどいいものが大野には沢山ある。世界遺産級の大きなものはないが頂いた沢山のキーワードを参考にコンセプトを提案したと思っている。

## 8 閉会

副委員長あいさつ

次回 第2回委員会は、2月13日（月）午前10時～